

郷土の遺跡をたずねて

(32号)

長洲町にも偉い人が詣山した
故人ではあるが、漁業者の月田

蒙斎、書道家の土肥樵石、尺八

の吉田晴風、寄行と鬼才で有名

な一本斎太郎、それぞの分野

で一家をなし、名をとどろかし

た人びとで、この人達の伝記を

さくら、これを紹介することは

意義あることと思う。

とりわけ一本斎太郎は善にも悪

にも強い人であった。

一本斎の奇行を

だます

権現山に狐が出る、だれも恐

れて寄りつかない、斎ちゃんは

目白おどしに行つて、よくとつ

てくる、狐が腹を立てて家まで

押しかけて来たらどうするが、

平気だよ山中では片足あけて

片目ふつとるもん。

当時牛水では権現目つちよ

はちこらりいと云う言葉が流行し

た、今で言う「こまい、こまい

」とか、「平ちやんたよ」にあ

たる。

征韓論に破れた西郷隆盛が、

参議の職をなげうつて、鹿児島

に帰り、私学校を立て、旧士族

の子弟を教育し、明治十年西南

の役をおこした。丁度其の頃、

植木学校も同じ意味合いで肥後

の旧士族の子弟が集められた。

荒尾の宮崎八郎が校長格で、

二十六才の若くて元気な先生で

ある、斎太郎少年は生徒である

が、毎日の課業はとても厳しく

漢字に加えてルソーの民約論

はては調練と昼夜を分たぬ猛訓

練、或る日生徒の中に、「先生

のビンタは打ちきるもんのやる

どか」と言う話が出た。よお

し俺がやると斎太郎、先生の前

に出るといきなり「ビンタ」と

やつた。先生はおどつて追つか

けて来た。一目散に逃げ出した

斎太郎、逃げも逃げたり熊本市

の池田町まで。追いつめられ

十二軒、後に声あり「斎ちゃんどうして逃げたかときどき運河

に用事があつてといふ。

長洲町にも偉い人が詣山した
故人ではあるが、漁業者の月田

蒙斎、書道家の土肥樵石、尺八

の吉田晴風、寄行と鬼才で有名

な一本斎太郎、それぞの分野

で一家をなし、名をとどろかし

た人びとで、この人達の伝記を

さくら、これを紹介することは

意義あることと思う。

とりわけ一本斎太郎は善にも悪

にも強い人であった。

一本斎の奇行を

だます

権現山に狐が出る、だれも恐

れて寄りつかない、斎ちゃんは

目白おどしに行つて、よくとつ

てくる、狐が腹を立てて家まで

押しかけて来たらどうするが、

平気だよ山中では片足あけて

片目ふつとるもん。

当時牛水では権現目つちよ

はちこらりいと云う言葉が流行し

た、今で言う「こまい、こまい

」とか、「平ちやんたよ」にあ

たる。

征韓論に破れた西郷隆盛が、

参議の職をなげうつて、鹿児島

に帰り、私学校を立て、旧士族

の子弟を教育し、明治十年西南

の役をおこした。丁度其の頃、

植木学校も同じ意味合いで肥後

の旧士族の子弟が集められた。

荒尾の宮崎八郎が校長格で、

二十六才の若くて元気な先生で

ある、斎太郎少年は生徒である

が、毎日の課業はとても厳しく

漢字に加えてルソーの民約論

はては調練と昼夜を分たぬ猛訓

練、或る日生徒の中に、「先生

のビンタは打ちきるもんのやる

どか」と言う話が出た。よお

し俺がやると斎太郎、先生の前

に出るといきなり「ビンタ」と

やつた。先生はおどつて追つか

けて来た。一目散に逃げ出した

斎太郎、逃げも逃げたり熊本市

の池田町まで。追いつめられ

十二軒、後に声あり「斎ちゃんどうして逃げたかときどき運河

に用事があつてといふ。

長洲町にも偉い人が詣山した
故人ではあるが、漁業者の月田

蒙斎、書道家の土肥樵石、尺八

の吉田晴風、寄行と鬼才で有名

な一本斎太郎、それぞの分野

で一家をなし、名をとどろかし

た人びとで、この人達の伝記を

さくら、これを紹介することは

意義あることと思う。

とりわけ一本斎太郎は善にも悪

にも強い人であった。

一本斎の奇行を

だます

権現山に狐が出る、だれも恐

れて寄りつかない、斎ちゃんは

目白おどしに行つて、よくとつ

てくる、狐が腹を立てて家まで

押しかけて来たらどうするが、

平気だよ山中では片足あけて

片目ふつとるもん。

当時牛水では権現目つちよ

はちこらりいと云う言葉が流行し

た、今で言う「こまい、こまい

」とか、「平ちやんたよ」にあ

たる。

征韓論に破れた西郷隆盛が、

参議の職をなげうつて、鹿児島

に帰り、私学校を立て、旧士族

の子弟を教育し、明治十年西南

の役をおこした。丁度其の頃、

植木学校も同じ意味合いで肥後

の旧士族の子弟が集められた。

荒尾の宮崎八郎が校長格で、

二十六才の若くて元気な先生で

ある、斎太郎少年は生徒である

が、毎日の課業はとても厳しく

漢字に加えてルソーの民約論

はては調練と昼夜を分たぬ猛訓

練、或る日生徒の中に、「先生

のビンタは打ちきるもんのやる

どか」と言う話が出た。よお

し俺がやると斎太郎、先生の前

に出るといきなり「ビンタ」と

やつた。先生はおどつて追つか

けて来た。一目散に逃げ出した

斎太郎、逃げも逃げたり熊本市

の池田町まで。追いつめられ

十二軒、後に声あり「斎ちゃんどうして逃げたかときどき運河

に用事があつてといふ。

長洲町にも偉い人が詣山した
故人ではあるが、漁業者の月田

蒙斎、書道家の土肥樵石、尺八

の吉田晴風、寄行と鬼才で有名

な一本斎太郎、それぞの分野

で一家をなし、名をとどろかし

た人びとで、この人達の伝記を

さくら、これを紹介することは

意義あることと思う。

とりわけ一本斎太郎は善にも悪

にも強い人であった。

一本斎の奇行を

だます

権現山に狐が出る、だれも恐

れて寄りつかない、斎ちゃんは

目白おどしに行つて、よくとつ

てくる、狐が腹を立てて家まで

押しかけて来たらどうするが、

平気だよ山中では片足あけて

片目ふつとるもん。

当時牛水では権現目つちよ

はちこらりいと云う言葉が流行し

た、今で言う「こまい、こまい

」とか、「平ちやんたよ」にあ

たる。

征韓論に破れた西郷隆盛が、

参議の職をなげうつて、鹿児島

に帰り、私学校を立て、旧士族

の子弟を教育し、明治十年西南

の役をおこした。丁度其の頃、

植木学校も同じ意味合いで肥後

の旧士族の子弟が集められた。

